

キャンペーン及び斗争の写真 インタビュー

AAJPS では現在 8 つ（チーム長崎、足尾・谷中、キャンペーン及び斗争の写真、広島・基町、北海道 101、公害、大阪撮影、筑豊）の作業チームに別れて作業を進めています。

それぞれの作業チームがどのようにアーカイブを進めているのか、直面している問題は何かなど広報部からインタビューの形でお聞きし、随時紹介していきたいと考えています。

テーマ〈キャンペーン及び斗争の写真〉

2022年12月7日 午前10時～12時 ZOOMを使用
東闊さんのお話し 聞き手 広報部編集委員 増田 今村

1 キャンペーン及び斗争の写真に取り組もうとした動機は何ですか？

「日本の写真1968展」を見た時、60年代のことをないものにしてはいけないと感じた。また、自分にとって斗争と全日は一体化したものである。小平の荷物を最初に開けた時色々なものがあり、『69年10.21』は印刷原稿プリントと青焼きで出てきた。『状況65』の印刷原稿プリント、『ゲキトツメモ』のスライド作成の元となるネガ、『69年10.21』『11.13-17』の表紙の校正刷りも何かを包んだ包装紙のような使われ方をしているのが見つかった。その時『69年10.21』と『69年11.13-17』は同時に進行していたことがわかった。それらのものをきちんと整理して保存しなければと思った。

2 現在もっているネガと写真の総量を教えてください。そのうちのどのくらいのスキャンが終わっていますか？

ネガ 1400本（未スキャン156本）
540本 広大、東大 三里塚
900本（未スキャン300本）77年
78年 三里塚

※ プリントはほとんどない

広大のネガは広大に収める形で広大文書館とコンタクトをとっている。

69年秋以降の写真がないので個人所有のネガが存在しないか引き続き探していきたい。



1969年6月15日 日比谷野音での集会



1969年4月24日 晴海埠頭;4.28行動沖縄県民代表団到着

3 これからどのようなアーカイブを考えていますか？まとめ方に斗争という特殊性はありますか？

斗争の写真は社会性があり、そこで起こっている事が何を目的としているか、またその日時や場所、規模などの情報を正確に集めなければならない。なので一つ一つの写真のメタ情報をつくっていくことが大事。

コンタクトを印刷しファイルを作っているので、当時のことがわかっている人に見てもらい、そこに映っていることがらの情報をまとめていきたい。スキャンしたデータでWEBギャラリーも作っている。最終的にはデータベースと連携した形でクラウドにあげ、たくさんの人に見てもらいたいと考えている。

4 まとめたものをどういう形で残すのが良いと考えていますか？

どこかにひきとってもらうのが良いと思っっている。現在は大学などの研究機関のイメージが強い。

5 より多くの人に見せていくことを考えていますか

見てほしいということはあるが、方法はどうするのかかわからない。あくまでも今まとめているものすべては作品というより「資料」だと考えている。また斗争の写真については一枚の写真では表現できない。そこに起こっていること、流れていくことを撮っているのだし、そういう関わり方をしたと思う。

AAJPS ホームページ
<https://aajps.or.jp>



6 現在取り組んでいて一番悩んでいることは何でしょうか？

斗争の写真の整理を一緒に取り組んでくれる人がなかなか見つからない。かつて全日で斗争の写真を撮ってくれた人たちに声はかけているが良い返事が聞けない。また、今作っているネガの目録を時系列別、ことがら別に並べ直し、写真もそれに沿った形で並べ直し見ていきたい。資料の形で残せればだれかが拾ってくれるかもしれない。

インタビューを終えて 編集委員から

・私が驚いたのはゲキツツメモのネガがでてきたというお話です。あの当時は「ネガを権力の証拠



1969年6月15日 反戦・反安保・沖縄闘争勝利 6.15大統一デモ



日本幻野祭 (1971年8月14日～16日) ; 三里塚

写真には絶対使わせない」ということで厳重に管理をしていたからです。50年という時間の流れを感じました。斗争の写真は写真表現という問題以前に「客観性」が大切で東さんの「資料」であるという位置付けはとてもよくわかりました。

・全日の斗争の写真は報道の側からでもなく体制の側からでもなく学生が現地で起こっていることに向き合い、学生の側から撮った、ある意味、世界に類のない写真だと話されたことがありました。これらを世の中に残しておくことの意味は大きいと改めて感じました。

<参加の呼びかけ>

斗争関係の写真群の根底には、「ゲバ棒かカメラか」という問いが持つその時代の、そこにしかあり得なかった緊迫感が熱を帯びたまま流れています。

それらを“無かったこと”には出来ません。2023年には多くの人に見て頂きたいと思っています。また、具体的な作業を担っていく人を募ります。

是非、一緒に最終形を創りましょう！

足尾・谷中チームからのお知らせ

栃木県立美術館で「小口一郎展」が開催されます。

(詳しくは、同封のリーフレットをご覧ください。)

私達は以前より小口一郎研究会代表の篠崎氏や、田中正造・足尾銅山鉛毒事件研究家の赤上氏、又、美術館学芸員の木村氏等々に写真を見て頂きました。また冊子も差し上げており、AAJPSの活動や全日、四九一に対する理解も徐々に得られていると感じています。

チームとしては現在、第四回(第1回足尾・第2回足尾・第3回調布)の写真展に向けて作業を進めている段階ですが、同時に最終的に、どこに、

どのような形で残せるのかを具体的に(対外的に)探っています。県や市などの公共団体、大学関係、研究会等々、可能性のある所は随時当たっていくつもりです。

例えば、今回の展示会の初日に特別後援として北海道佐呂間町から町長と教育委員会の方がお見えになる予定ですが、現地での写真展開催についてご相談させていただく機会が得られそうです。

70年代、足尾・谷中の撮影に多くの四九一メンバーと学生が取り組みました。私達チームはそれを継承し、残そうとしています。

是非、「小口一郎展」をご覧ください。

'65～'79までの全日・491のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持ちのネガや資料の情報をお知らせください。

お問い合わせ等：277-0053 柏市酒井根 2-20-11 東 闊 hig811@gmail.com